

日本薬学会 九州支部 根岸正彦博士 特別講演会

演題：薬物代謝酵素の誘導機構

日時： 2017年9月8日（金） 14時00分～15時30分

場所：福岡大学薬学部16号館 1641教室（福岡市城南区七隈8丁目19番1号）

根岸正彦先生は、薬物代謝酵素、特にチトクローム P450 の発現調節機構に関する研究で著名な研究者です。近年、古くよりその存在は知られていたものの機構が不明であったフェノバルビタールによる誘導機構を明らかにしておられます。核内受容体に関する多数の論文を発表されており、これらのご功績により、2016年に、米国薬理学会 (ASPET)より、Bernard B. Brodie Award を授与されています。この度、根岸先生が特別顧問を務めておられる内外環境応答・代謝酵素研究会が2017年9月9日～10日に九州大学病院キャンパスにて開催されるため御来日になられます。この機会に、福岡大学薬学部生化学教室と九州大学大学院薬学研究院分子衛生薬学分野がジョイントで特別講演会を企画致しました。講演は日本語で行われます。学部学生にも理解しやすいご講演をしてくださる予定です。多数の御来聴をお待ち致しております。

薬物代謝酵素の誘導機構

根岸正彦、主任研究員、米国国立健康衛生研究所、ノースカロライナ州、米国

生体は薬物を異物として応答します。肝臓の酵素群が薬物を代謝し、膜トランスポーターが代謝物を外に排泄します。肝臓は薬物に応答して薬物代謝酵素、トランスポーターを誘導して、代謝排泄量を増強する機能を持っています。薬物代謝酵素の誘導は薬物効果、薬物相互作用と薬物毒性に多大な影響を与えます。この誘導現象は、1960年初頭にフェノバルビタールによる肝臓チトクローム P450 (CYP)の誘導として発見されました。以後半世紀に及ぶ研究で核内受容体を介した誘導機構が解明されました。本講演はフェノバルビタールの研究を中心にして、薬物代謝酵素の遺伝子制御機構について報告します。

参考文献：

Masahiko Negishi, Phenobarbital meets phosphorylation of nuclear receptors. *Drug Metab. Dispos.* **54**: 532-539 (2017) doi:10.1124/dmd.116.074872.

連絡先：

本田伸一郎 福岡大学薬学部生化学教室

電話: 092-871-6631 (代表)

E-mail: sihonda@fukuoka-u.ac.jp

石井祐次 九州大学大学院薬学研究院分子衛生薬学分野

電話: 092-642-6586

E-mail: ishii@phar.kyushu-u.ac.jp